

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念を正面玄関に掲示していません。昨年度、事業所独自の理念を接遇委員会にて検討し、「まごころと想いをつないでみんなが暮らせる家」という理念を作り、職員で共有をしました。事業所理念は正面玄関とユニット内に掲示しています。	事業所の理念は、事業所の名称「まつみ」を「まごころ」の「ま」、「つないで」の「つ」、「みんなで」の「み」を組み入れて作成されており、職員が常に思い出せるよう工夫されている。職員は日々利用者に関わる際に、理念を共有し具体化できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し清掃活動や防災訓練に参加しています。町内の行事にも参加させていただき、七夕祭りや花見会、ストリートフェスティバルに利用者と職員で参加させていただきました。	敷地内のポケットパークにベンチやテーブルを設置したことにより、小学生の登校時の集合場所になったり、散歩する地域の高齢者や子供連れの主婦等が立ち寄るようになり、少しずつ交流の場になりつつある。地域の行事等にも積極的に参加すると共に、事業所でも地域住民との交流行事を企画して多くの方々から訪ねてもらい、利用者との交流が深められることを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の職場体験の受け入れを行っており、施設の取り組みを紹介しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設する小規模多機能事業所と合同で開催しています。今年度から他事業所に委員をお願いし、利用状況や行事の様子をお伝えしたり、サービスに関する協力や助言、指導を頂いています。	運営推進会議には民生委員、町内会長、他の事業所の職員等、外部の方からも参加してもらい地域の理解と支援を得るようにしている。事業所の現状を報告すると共に、ヒヤリハットの事例等も報告し、具体的なアドバイスを受けるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として、市役所の介護高齢課の職員1名・地域包括支援センターの職員1名に参加をお願いし、事業所の報告をするとともに意見を頂いています。	市の担当者とは常に連絡を取り合い、相談に乗ってもらって指導が受けられるようになっている。運営推進会議には毎回出席してもらい、事業所の考え方や現場の実情を受け止めてもらうようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、施錠等は行っていません。身体拘束廃止マニュアルを作成し配布しています。今年度は身体拘束・虐待防止委員会にて勉強会を行っています。	利用者の状況は現在落ち着いており、自由な環境が保たれている。介護度が高い利用者の転倒予防のために、ベット脇にセンサーマットを設置している利用者が複数いるが、各々家族から書面で了解を得ている。身体拘束・虐待防止委員会では常に実践を通じ、マニュアルの定期的見直しを行い、記録も整備されている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会にて5月と8月に勉強会を行いました。虐待につながる不適切ケアについて学ぶ機会を設けました。	内部の勉強会では、虐待に繋がる不適切行為の具体例をあげて、職員が見過ごすことがないように確認している。外部研修にも参加し、復命書が職員にも回覧されている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している方、成年後見人の手続きを進めている方がおり、包括支援センターや社会福祉協議会と連携して支援をしています。また、法人内の研修に参加し制度への理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前には出来るだけ見学をしていただき、不安や疑問に思われたことにお応えしています。利用開始前に契約書・重要事項説明書についてご家族に説明を行い承認を得てから利用を開始していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置しています。日常生活や会話の中から利用者の思いや要望を確認し実現に向けて取り組んでいます。ご家族様へは面会時や電話連絡の際に要望等を気軽に言って頂けるよう話をしたり、声に出して頂ける関係作りに努めています。	今回の外部評価の利用者・家族アンケートでは具体的ないくつかの意見が出されている。これらについては早急に協議し対応したい意向である。意見箱も設置されているが、アンケート用紙を備え付ける等工夫が望まれる。また、利用者や家族が事業所以外の第三者に、意見や苦情の相談が出来るようになっている。利用契約書にも記載されており、事業所玄関にも表示されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートの活用や毎日のミーティング、日々の話し合い等で意見の交換や提案を聞く機会を設けています。また、全職員を対象に個別の面談も実施し、直接意見を聞き業務に反映できるよう努めています。	管理者は日常の会議やミーティング、職員との個別面談の機会を捉えて、職員の意見や要望を聞くように心がけ、職員の働く意欲の向上やサービスの質の向上に繋げるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課を行い、職員が向上心をもって勤務できるよう努めています。資格取得に対する支援も行い、スキルアップ、キャリアアップの体制を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の施設と研修の協力体制を取っています。外部研修にも積極的に参加し、研修における復命書を回覧することで研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や市内の事業所連絡会などに参加しネットワークづくりや、情報交換、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に自宅やサービス事業所へ訪問し生活状況の確認や、本人・家族との話し合いにより生活歴や本人の思いを理解し受け止め、安心して生活して頂ける関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に家族との面談で不安や要望等確認しています。また本人に対する生活の意向を確認し、サービス計画書に反映させています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前の面談にて、本人・家族の困っている事を聞き取り必要な支援を見極め、必要に応じて他のサービスについての説明も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事作り、生活の中で出てくる家事全般を入居者様と職員で一緒に行うようにしています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊、受診、居室の環境作り等、ご家族からのサポートや協力が施設での生活には欠かせない要素として捉えており、ご家族しかできない関わり方等をお願いするとともに、協働する関係づくりを大切にしています。話し合いの結果を会議録に残し、職員にも周知しています。	家族と連携して利用者本人を共に支えていくことを大切にしている。今後は、利用者一人ひとりの日々の暮らしの出来事や気づきの情報をきめ細かく家族に伝え、情報を共有しながら本人と一緒に支えていく協力関係の構築が望まれる。	今回の外部評価の家族アンケートの中に、本人の様子を画面で知りたいとの要望があったが、隔月発行の広報誌を送付する際に、担当者が利用者の近況を記入した文書を添える等の方法で、家族と情報を共有する工夫が期待される。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室の利用を継続して頂いている方がいます。知人や近所の方が面会に来て下さる事もあり、これまでの関係が途切れないように努めています。	地域の行事への参加で馴染みの人に会えたり、食材の買い出しにスーパーに出かけたり、併設の小規模多機能ホームからの知人や近所の顔見知りの方の面会等を通じ、これまでの繋がりを継続できるよう支援に努めている。管理者は事業所の地域交流ホールや敷地内のポケットパークが出会いの場になってくれることを望んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を配慮し、食事の席を工夫したり、個別の活動や役割を提供しています。利用者同士で声を掛け合って家事をされたり、介助が必要な利用者に対し、他の利用者が手助けする場面もあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でサービスの利用が終了しても、必要に応じて相談や支援に応じ、情報提供や他サービスの利用につながるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当介護員と計画作成担当者を中心に、生活の中で利用者の思いや考え等把握し、要望に対応できるよう心がけています。思いは職員で共有するよう、昨年度から導入した「私の気持ちシート」に記載し、必要に応じてカンファレンスやケアプランに反映させています。	センター方式の「私の気持ちシート」を活用し、利用者一人ひとりの思い、暮らし方の希望、意向を把握して詳細に記録し、ケアプランに反映させている。意思疎通が困難な人については、家族や入所前の地域のケアマネージャー等から情報を得るようにしている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との関わりの中で、これまでの暮らしぶりや環境を把握するようにしています。職員間での情報交換を行い、共有するようにしています。	利用開始前の本人の暮らしぶりについては、家族や入所前の地域のケアマネージャー等から詳しく情報を把握するようにして、これまでの生活スタイルが大きく変わることがないよう支援に努めている。本人の意向を大切に、出来ることは今まで通りやってもらい、過剰支援にならないよう見守り、その状況を職員間で情報の共有を図っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向を確認しながら、本人のペースを大切に、過ごしていただいている。また、出来るところは、手を出しすぎないようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意向を確認し、カンファレンスを行い現状に応じた介護計画を作成するよう努めています。	利用者・家族の意向を踏まえながら、計画作成担当者と担当介護員が中心となり作成している。「私の気持ちシート」や施設ケアアセスメント票を活用し、個々の24時間の生活シートが具体的に作成されている。1年に1回の見直しとモニタリングを実施しているが、利用者の状態の変化に応じて、職員や家族の意見を反映させ、現状に即した介護計画になるよう作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はタブレット端末を利用し、さらに申し送りノートや気づき共有シートで職員間の情報共有を行い、支援内容の工夫を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向やニーズ・ご家族の希望、その日の体調や天候など様々な要素を考慮し、その方の生活リズムを大切に考え、臨機応変に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の一員として、地元の町内行事に参加させていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医に通院を行っている。家族が付添ができない際には、事業所にて対応できるようにしています。かかりつけ医とは、手紙や付き添いにて関係作りを行っています。	受診については、本人・家族の希望するかかりつけ医が基本となっている。家族には、日頃の本人の様子や看護師による観察経過が記録された手紙を準備しており、医師からの受診結果を記載してもらって連絡として活用されている。家族の付添いが難しい時は、職員が受診に付添いすることもあり、医師に日常の状態を詳しく伝え、適切な医療が受けられるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する小規模多機能と兼務の看護師を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じ相談や対応をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院に出向いたり電話にて状態確認や病院関係者との情報交換を行っています。また、カンファレンスにも参加し退院に向けた調整も行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについて、12月に法人内で行われる研修会に参加予定です。研修内容を職員が共有できるよう、内部でも研修を行いたいと考えています。	現在、事業所では緊急時や夜間の対応等の協力医療機関が得られていない現状もあり、看取りはしない方針となっている。今後、利用者・家族の意向を尊重し、重度化した場合の対応について、検討する必要性を把握している。また、職員は法人内の終末期ケア研修に参加し、伝達研修を行なう予定である。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修委員会が計画した緊急対応研修を実施しました。また、法人内の施設にて実施された普通救命講習にも参加し、急変時の対応の訓練を行いました。不審者対策として防犯カメラを設置しました。	法人内で実施される普通救命講習に参加したり、玄関にAEDを設置し全職員が対応できるよう努めている。また、研修委員会を中心とした緊急対応研修の実施により、緊急時に適切な行動が出来るよう知識・技術を身に付けている。利用者の急変や事故発生時に安心して生活できるよう取り組みがなされている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間を通して防災委員会にて計画した避難訓練を行っています。火災、地震想定等の訓練を実施し、夜間想定での非常呼集訓練も行っています。地元消防団、地域住民、消防署立会いの訓練も実施しました。	年1回は消防署立ち合いの下、日中に避難・救護・消火訓練を利用者と共に行なっている。また、11月は、地元消防団参加の訓練や地域住民の協力・参加による訓練も実施している。敷地内にポケットパークを整備し、地域住民の防災避難場所にもなっており、地域との協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を尊重し、尊厳を傷つけないよう言葉使いにも配慮しています。また、接遇委員会を中心に、言葉かけの見直しを行っています。	接遇委員会を中心に、尊厳を傷つけない言葉かけの見直しが行われている。職員は優しい表情や声のトーンに配慮することを心掛けている。利用者個々の人格を尊重し、「敬語で接すること」についてを、一人ひとりが、しっかり意識しており、穏やかで温かい言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中の一つ一つの動作や作業の中で、常にご本人に声かけをし、意向を聞きながら活動をして頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課に沿いながら、一人ひとりのペースや生活リズム、要望の把握に努め、その人らしく過ごしていただけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご本人と選び、気候にあった本人の好きな服装をして頂いています。理髪についてもご本人の要望を聞いて利用して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物、下ごしらえ、味み、後片付けなどを職員と共に行って頂き、昼食は職員も一緒に食べ感想を言い合いながら楽しく食事をしよう努めています。	献立は法人施設の管理栄養士が作成したものを参考にしている。利用者の出来る力を活かしながら共に準備を行っている。湯飲みは本人の愛用の物を使っている。利用者が準備した温かいおしぼりは食事の直前に出され、喜ばれている。また、近隣から出前を取ったり、外食に出かけたり、毎日ではないが利用者と一緒に食材の買い物に行くことなども楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立を参考に、食事を提供しています。食事量についてはケース記録に記載することで把握し、必要に応じて補食を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、必要に応じ、介助を行っています。就寝前には義歯洗浄を行い、清潔保持に努めています。また、協力歯科医院による口腔ケア指導も実施しました。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのしぐさ、表情や様子から排泄サインを察知し、その人に応じたさりげない声かけで誘導ながら、トイレでの排泄ができるよう支援しています。	利用者の生活パターンの把握により、その方のリズムに合わせたさりげない声かけで誘導が行われている。身体状況に応じて手を差し伸べたり、自尊心を大切にされた個別の排泄支援が行われている。また、トイレは、臭気もなく清潔感があり使いやすいトイレとなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の状況を把握し、看護師、主治医との連携も図りながら、個々に応じた対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本となる入浴予定表により、その方の体調や希望によって、日時を変更しながら入浴して頂いています。入浴が困難な際は清拭や、シャワー浴、足浴等で対応しています。重度の方には、併設の小規模多機能施設に備えてあるリフト浴を使用し入浴してもらっています。	入浴予定表はあるが、本人の体調や希望を尊重し柔軟な対応が行われている。季節によって菖蒲湯やゆず湯などを実施し、利用者が入浴を楽しめるよう工夫している。重度の利用者には、併設の小規模多機能ホームに備えてあるリフト浴も身体状況に合わせて対応可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに応じて休息して頂いています。又、安心して気持ちよく休まれるよう環境整備に努め、季節ごとの寝具の入れ替え等支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容や用法、副作用について説明書にて確認しています。症状の悪化や状態変化時には看護師、主治医に報告し指示を仰いでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	米とぎ、食堂掃除、食器拭き、洗濯たみ等、日常生活の中で、その方が得意とする事を役割としてやっていただき、やりがいを感じ活躍できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなど季節や天候に応じて随時行っています。白鳥見学や紅葉狩り等、季節にあった外出計画もあり、地元の七夕祭りや春祭りにも参加しています。	季節の変化を楽しむ外出や地域行事の見学・参加などは、レク係を中心としながら、利用者と話し合いながら実施している。また、ドライブで気分転換を図ったり、ポケットパークに散歩に出掛けたり、地域との関わりを広めている。事業所の敷地内には畑があり、サツマイモなどを共に作り食材にも使用されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設としては金銭管理をしておらず、原則ご家族の管理となっています。個別にお金を持っている方がおり、必要に応じて買い物の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や手紙などやり取りが出来るようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂では季節を感じられるように装飾を変え、中庭には野菜や花を置いて四季を感じて頂いています。利用者の希望を聞きながら冷暖房を調節しています。	中庭には季節の野菜や花が置かれ、晴天の日は日向ぼっこスペースにもなり、開放的で明るく居心地のよい空間になっている。共有空間には季節にあわせた装飾が施され、掲示版には食事のメニューが分かりやすく手書きされ、安心して生活できるよう配慮されている。また、自由に地域交流スペースへ新聞を取りにいたり、貸し出し文庫に触れることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の食堂の他に交流ホールや中庭のベンチ、各個室等、本人が好きな場所で過ごしていただけるようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族に使い慣れた家具や思い出のあるものを持ち込んでいただくようお願いをしています。	利用者一人ひとりの居室には木製の表札があり、折り紙等の飾り物が優しく飾られ、温かい雰囲気を醸し出している。備え付けのベッドと洗面所、広いクローゼットがあり、利用者の思い出の写真等、馴染みの品々を持ち込んで、居心地のよい自分らしい居室作りに配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの安全な環境を整え、施設生活では自宅で困難であった動作も自立して行えるよう支援しています。		